



第17回 朝日レディーステニス全国決勝大会

1995年11月14～17日 朝日生命本社&朝日生命久我山スポーツセンター



第17回朝日レディーステニストーナメント秋田県予選大会

9月12日（火）・13日（水） 秋田市営八橋テニスコート

参加組数 56ペア

優勝 片岡富子・高崎真知子
準優勝 鳥羽昌代・信田美喜子
3位 堀江千景・村越末季子

☆宣誓 時田 睦子・佐藤艶子

『25才以上の年齢制限を
守り、女性らしさを失なわ
ず試合することをお約束い
たします。』



全国大会試合結果 1回戦 不戦勝
2回戦 秋田0-3埼玉

決勝大会に参加して

監督 白瀬 順子

「技術、上を見ればきりがありませんが、可能性は大であります。全国大会では皆さんいい仕事をしてくれました。」

NO.1チーム

全国の壁は厚い。若さだけでは勝てず。心、技、体を鍛える必要あり。次の目標に向かって、仲間と共にワンランクアップできたら、サイコー。（片岡）

久我山の空は限りなく青く、素晴らしい技術と精神力を持つ埼玉に、今自分は何をなすべきかを教わる。あのNO.1に近付くために、日々自分を磨いていきたい。（高崎）

NO.2チーム

「晴れない青空の下、初めて立った久我山のコート、一心に戦った埼玉との試合、その後の親善ゲーム。とても楽しかった。また行けるようこれからもがんばらなくちゃ。」（鳥羽）

対戦相手は、強豪埼玉だ。失うものは何もない。ゲームセット。切なさ緊張感から解放され、悔しくて涙が込み上げる。“私はまだ青虫だ。”でも、いつか蝶になって、うれし涙を流せる日が来る事を信じて、今後もテニスを続けていきたい。（信田）



地区大会決勝戦を終えて

NO.3チーム

昨夜の敵は今日の友。県予選が終わった日からチームメイトに。ドキドキや不安も女学生のようにみんなで励まし合う。今さらと照れるが素敵な事だ。みんなありがとう。（堀江）

また、課題を山のように抱えて帰って参りました。東京は、1300余人の内の6人。秋田は、1/10以下。全国は近いんです。お願い誰か埼玉をやっつけて！（村越）

島田のり江さん（東京の応援団）

代表選手のお顔はキラキラ輝いて、いつも魅力的です。大会が続く限り、秋田を応援します。

〈たくさんの差し入れ、いつもありがとう。〉